

令和7年度

板野南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 話す・聞く、書く、読む力を高める。(目的意識をもち、筋道を立てて自分の考えを伝える。)
- 主体的に学習に取り組むことができる児童の育成。

校長

山口 裕司

学力向上推進員

北尾 教子

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

研修の機会を生かして、取り組み状況について報告する場をもつ。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題や決まった課題にまじめに取り組める児童が多い。 ○漢字や計算等の基礎的な知識・技能については定着しつつある。 ●語彙力の乏しさから、文章を正確に読み取ることに課題を感じる。	●基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ●語彙力を増やし、目的に応じて、文章の内容や意図を正確に読み取ることができる。	●漢字・計算の反復練習をし、定期的に確認テストをする。 ●国語辞典やタブレットを効果的に活用し、語彙力を高める。(3年生以上) ●大切な言葉にラインを引かせることで、文章を読み取る手がかりとさせる。	●習った漢字が使えるように、日記で活用した漢字の数を数える習慣をつける。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ハンドサインを使って、自分の考えを意思表示できる児童が増えてきている。 ●自分の考えを根拠や理由を明らかにして説明することができる。 ●グループ活動になると、友達の意見を聞いて考えをまとめたり修正したり新しい考えを生み出したりすることに課題がある。	●自分の考えを根拠や理由を明らかにして説明することができる。 ●自分の意見を持つと共に、対話を通じて、相手と交流することができる。	●スピーチの時間を設け、文の構成や話し方の話形を意識させる。 ●ペアやグループ活動など様々な学習で、ねらいを明確にした対話の場面を設ける。	●発言する時に話形を意識して言えるようにする。(根拠や理由を説明するのが苦手な児童には、例を挙げ、自分の考えと近い物を選んで表現させる。)		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○最後まであきらめずに、学習に前向きに取り組める児童が多い。 ●自らの課題を見つけ、課題解決に向けて努力しようとする意識が低い。	●めあてを持って学習に取り組み、自分の学習の状況をしっかりと振り返ることができる。	●授業では、めあてを意識した振り返りの時間を設け、振り返りの視点を提示する。(振り返りカードを活用) ●家庭学習でもめあてや振り返りを意識させ、一つ一つの課題を丁寧に取り組ませる。	●高学年の家庭学習では、自主学習にめあてと振り返りを合わせて書くことと、必要な学習を自分で選択して学習することを継続的に促す。 ●家庭学習をじっくり丁寧に取り組めるよう、保護者(各家庭)にも協力してもらう。(学校だより等で宿題に目を通してもらうよう保護者に呼びかける。)		